

トッドヒューイント培地〈CL・NA〉(ブロス) 2ml

トッドヒューイント培地〈CL・NA〉(ブロス)で増菌すると
B群レンサ球菌の検出率が高くなります。



目的

B群レンサ球菌(Group B *Streptococcus*:GBS)の増菌用として使用します。

- GBSは敗血症や髄膜炎などの新生児GBS感染症を引き起こすことが知られています。妊婦検診時のGBSの検査は、安全な周産期管理だけでなく新生児GBS感染症の発生日スクを軽減させると言われています。
- 米国CDCの新生児GBS感染症予防のための検査指針として推奨された検査方法です。
- トッドヒューイント培地〈CL・NA〉(ブロス)は、コリスチンとナリジクス酸によりGBS以外の腔常在細菌の影響を受けず、GBSの検出率を向上させることが可能なのでより良い周産期医療に貢献できる培地です。

組成 (1000ml中)

ウシ心筋浸出液	3.1 g
ペプトン	20.0 g
ブドウ糖	2.0 g
塩化ナトリウム	2.0 g
リン酸一水素ナトリウム	0.4 g
炭酸ナトリウム	2.5 g
コリスチン	100,000 単位
ナリジクス酸	15.0 mg
pH7.8±0.2	

Todd-Hewitt 培地(ブロス)にコリスチンとナリジクス酸を添加することにより、夾雑菌の発育をより抑制し、選択性を高めています。



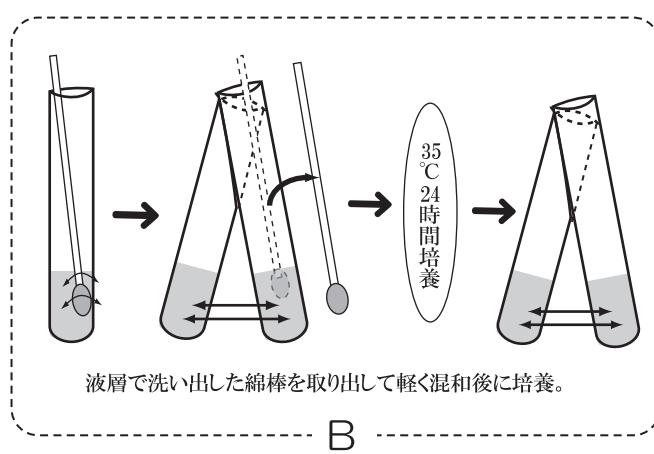
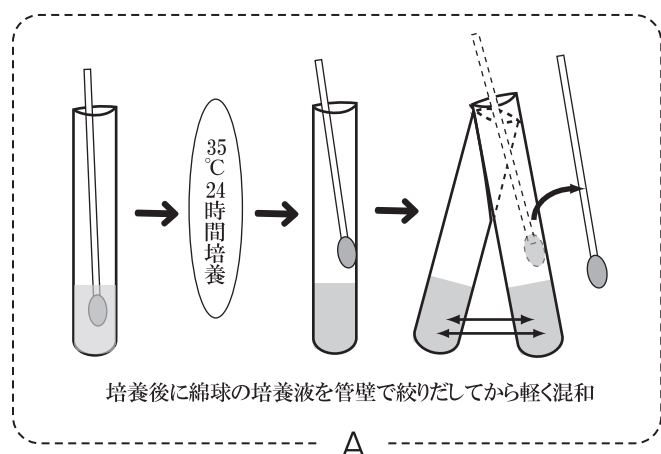
商品コード	商品名	包装	価格	有効期限	保管方法
SG4509-050	(SG)トッドヒューイント培地〈CL・NA〉(ブロス) 2ml	50本	6,000円(@120) 税込6,600円	3ヶ月	冷蔵 (4~9℃)

トッドヒューイント培地<CL・NA>(ブロス)を使用した B群レンサ球菌の確認法

1 試料の接種と培養

- 試料(腔分泌物など)を採取した綿棒の綿球部がブロスに浸るまで挿入します。
なお綿棒の扱いは「A」、「B」どちらの方法でも検査は可能です。実施しやすい方法をお選び下さい。

- A. 綿棒を浸したまま培養を行う。
- B. 綿球部を培地に浸し、試験管壁に擦るようにして検体を洗い出した後、綿棒を取り出して培養を行う。



トッドヒューイント培地<CL・NA>(ブロス)で増菌培養(35°C24時間)

2 分離培養と同定

- 増菌培養(35°C 24時間)の終わったブロスから培養液を一白金耳採取し、羊血液寒天培地またはCNA羊血液寒天培地の表面に画線塗布し35°C・48時間培養後に出現した典型コロニーについて確認検査を行います。

